

Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.19 子守帯 (スリング) 内での心肺停止の類似事例

事例	年齢：0歳1か月15日 性別：男 体重：3.3kg 身長：44cm	
傷害の種類	窒息	
原因対象物	クーハン	
臨床診断名	窒息による急性呼吸不全	
医療費	約57万円	
発生状況	発生場所	自宅寝室
	周囲の人・状況	母親と双胎の兄が隣の布団で寝ていた。
	発生年月日・時刻	2015年12月15日 午前4時55分ごろ
	発生時の詳しい様子 と経緯	双胎第2子・早産低出生体重児（在胎36週6日、2158g）のためNICUに入院歴がある。退院後布団では寝付けない様子だったため、囲みがあれば落ち着くのではないかと考えて普段よりクーハンの中で児を眠らせていた。クーハンは母の顔の高さと同じになるようにしてたたんだ毛布の上に置いていた。退院から10日目（である当日）、母が目を覚ますと毛布が崩れてクーハンが傾いており、クーハンの側面に児の顔面が押し付けられてぐったりとうつ伏せになっていた。救急車要請し、救命救急センターに搬送された。
治療経過と予後	救急隊到着時には体温32.9度で呼吸は弱く、全身蒼白だった。マスク&バッグ換気で呼吸は回復し、来院時には呼吸状態は保たれていた。身体所見上は明らかな異常はなかった。血液検査では呼吸性アシドーシス（pH 7.225, pCO2 60.6, HCO3 ⁻ 24.3, BE -3.4）および、AST 218 IU/l, ALT 173 IU/l, LDH 1260 IU/l, CPK 912 IU/l と逸脱酵素の上昇がみられたが、経過とともに改善した。心疾患や胃食道逆流・代謝疾患・感染症など急性呼吸不全の原因となりうる疾患は否定的で、入院中のモニター観察でも呼吸・循環動態に問題がなかったことから、クーハンでの窒息によると判断した。退院前の頭部MRI検査では異常所見はなかった。両親へはクーハンは移送のためのものであり、眠らせる目的で使用しないように指導し、第13病日に退院した。発症から2か月の時点では明らかな神経学的異常は認めないが、発達のフォローアップを継続する予定である。	